

Topic 99 地球温暖化対策の中期目標

こんにちは、村上です。

ドイツ・ボンにおいて、今年度末の COP15(デンマーク・コペンハーゲン)に向けての国連機構変動枠組条約の作業部会が開催中ですが、日本の**中期目標**(温室効果ガス削減努力目標)に関して国内外からの色々な意見を耳にします。そこで今回は、我々の将来の生活に経済的のみならず公私を問わず多様な影響を与える重大な問題であるけれども、仕組みが複雑で理解が難しい地球温暖化対策の中期目標について紹介します。

1. 気候変動枠組条約と京都議定書～とても基本的なこと～

気候変動に対する国際的な取組をしては、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択され、1994年3月21日に発効された「**気候変動枠組条約** (Framework Convention on Climate Change) (以下“条約”）」がある。これは、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを目指して努力することを定めたもので、現在 191 カ国と欧州共同体が批准している。米国も中国も、この条約は批准している (2007年4月11日時点)⁽¹⁾。

「**京都議定書** (Kyoto Protocol) (以下“議定書”）」(COP3(Conference of the Parties : 気候変動枠組条約締約国会議)が京都で開催されたことに因む)は、1997年に採択され、2005年2月16日に発効された。条約と議定書の一番の違いは、次の通り。**先進国(37カ国)**に対して、**条約は**温室効果ガス濃度を安定化させるように促しただけだが、**議定書は**それを義務付けている。ちなみに、この拘束力のある議定書を、米国は批准していない(署名のみ)。中国は批准しているが、現時点では温室効果ガス削減などの義務を負っていない(2009年6月1日時点)⁽²⁾。

議定書は、**2008～2012年**における各国の温室効果ガス年平均排出量の総量削減目標を定めた。現在は、議定書の定める期間(2008～2012年)が終了した後の国際的枠組合意を、2009年末にコペンハーゲンで開かれる COP15 で取り付けることを目指して議論されている。主な議題の一つは、**2013～2020年**までの温室効果ガス排出量削減目標(中期目標)設定である。

2. 日本の中期目標

日本は、6月中に中期目標を決める予定である。数年前から「中期目標検討委員会」を設置し目標設定のための分析などを行ってきた。表-1に示す1～6の6つの選択肢が設定されており、このうちの1つが中期目標となる。6つの選択肢を実施するために必要な具体的な技術導入及び政策として、①太陽光発電等、②自動車、交通流、③住宅・建築物等について検討された結果が公開されている。このうち③について表-1に示す⁽³⁾。

表-1 6つの選択肢と必要な対策・政策（住宅・建築物等に限る）

選 択 肢	温室効果ガ ス 1990 年比	住宅・建築物等		
		主な技術導入		主な政策
		断熱住宅		
1	4%増	新築住宅の 70%		<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ法の省エネ基準 ・税制優遇
2	1%増～5%減	—		—
3	7%減	新築住宅の 80%		<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ住宅の基準強化、対象拡大 ・グリーン家電購入支援補助
4	8～17%減	—		—
5	15%減	財 政 出 動 重視型	新築住宅の 100% 既築も含めた全住宅の 60%に	<ul style="list-style-type: none"> ・税制優遇、補助金の強化 ・新築、既築住宅の省エネ基準義務化
		義 務 付 け 重視型	新築住宅の 100% 既築も含めた全住宅の 100%に	
6	25%減	新築住宅の 100% 既築の 100%を改修		<ul style="list-style-type: none"> ・新築、既築住宅の省エネ基準義務化

ちなみに中期目標と関連づけたものではないが、海外における住宅・建築物等に対する具体策としては次のものがあがっている。英国の住宅・非住宅のゼロカーボン化、フランスの 2020 年までに全新築建物をエネルギー・ポジティブ（エネルギー生産量が消費量を上回る）化義務付け、米国の一部の都市における LEED 義務化など⁽⁴⁾。

3. 数字の持つ意味

EU は 1990 年比削減率-20%(条件付き)、米国は 1990 年比±削減率 0%、と中期目標を発表した。数字だけみると、日米欧で欧州が一番努力しているように見える。欧米の分析モデルを詳細にチェックしたわけでないが、少なくとも欧州の削減率には海外クレジットの購入分を含んだ値である。一方、日本の分析は、①海外クレジット購入、②森林吸収分、を除外している⁽⁵⁾。

4. 感想

ボンでの会合も始まったことだし、日本の中期目標設定に関して各界それぞれ意見が分かれているし、“住宅・建築物等”を項目の一つとして技術・政策導入を検討している資料は発見するし、といった状況が重なったことから、中期目標をメルマで取り上げよう！と安直に決めた。しかし、調べれば調べるほどよく分からないことが増えてゆく。前述のようにモデルの前提条件を考慮せず、数字だけでその国の努力を評価するのは危険であることは分かった。しかし、日本のモデルや条件設定なども web でちょっと調べた程度で分かるものでもない。また常々感じていた以下の素朴な疑問も気になり始めた。

- ・ 1990 年以前(京都議定書の基準年)の削減努力は加味されないのか？(日本の省エネ技術は進んでいるため“削減シロ”が少ない、という話を耳にする)
- ・ 工場などの生産施設を全て国外に移した国(post industrialised countries)の方が有利ではないのか？

そこで、やや強引な結論。国内外を問わず私のような一般人を説得できるような、科学的・理論的かつ分かりやすい資料を公開することができれば、国際社会では“共通だが差異ある責任 (common but differentiated responsibilities)”を非難されることなく主張でき、国内では国民がもっと自発的・積極的に温暖化対策に貢献しようという気持ちになるのではないか。結果として、グリーンビルも増えるはずだ。なぜなら、温暖化対策に限った話ではないが、①問題を把握すること、②対面している問題に対してどのような対応がどれ程のコストで採りうるのか、③採用した対応に対してどのようなメリットがあるのか、を納得した上であれば人は動くはずである。

ということで、グリーンビルを推進するためには、中期目標がどのように決められるのかも理解する必要があるのではないだろうか。

出典

- (1) http://unfccc.int/files/essential_background/convention/status_of_ratification/application/pdf/unfccc_conv_rat.pdf (accessed on 2009/06/09)
- (2) http://unfccc.int/files/kyoto_protocol/status_of_ratification/application/pdf/kp_ratification20090601.pdf (accessed on 2009/06/09)
- (3) http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tikyuu/kaisai/dai07kankyo/cyuuki_mokuhyou.pdf (accessed on 2009/06/09)
- (4) <http://www-vip.mlit.go.jp/common/000027781.pdf> (accessed on 2009/06/09)
- (5) http://www.rite.or.jp/Japanese/lab0/sysken/about-global-warming/download-data/KeyPoints_Middle-termTargetRITE_20090422.pdf (accessed on 2009/06/09)

(村上の独り言)

今年の GW も長野にファームステイに行ってきました(Topic83 参照)。春風がさわやかな五月の伊那谷で、早寝早起き、朝から晩までりんごや桃、梨の木の手入れに勤しむ。健康的です(帰宅後数日間、筋肉痛に悩まされましたが)。

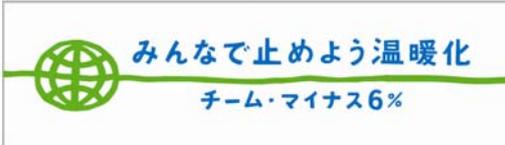
ここでの生活は、掃除から始まります。それも掃除機なんて無粋なものは使いません。箒です。準備中の朝食の香りが漂う中、静々と箒で掃除をする時間というもの、一日の始まりとしては良いものです。

これに感化された訳ではないのですが、東京の狭い我が家も箒を活用しています。安普請故に、夜7時過ぎに掃除機をかける勇気がなく、箒は必需品です。使用頻度が高いわりには穂がぼろぼろと抜け落ちる廉価なものを使っていましたが、最近「鹿沼箒」に変えました。栃木県の伝統工芸品です。“伝統工芸品”と呼ばれるモノに弱いのです。

伝統を守るのに一役買い、電気を使わず住宅からの CO₂ 排出削減にも貢献。“一石二鳥”にも弱い私には、うってつけのアイテムです。

バックナンバーはこちらからどうぞ！

「ERS のグリーンビルサイト」: <http://www.brown-green.com/>



イー・アール・エスはチーム・マイナス 6%に参加し

ています。